



琴平バス株式会社



執行役員
企画開発部統括／R&Dユニットリーダー

山本 紗希 Yamamoto Saki

企業・団体情報

所在地：香川県仲多度郡琴平町川西1228-1

設立：昭和31年9月

資本金：6,000万円

H P：<https://www.kotobus.com/>

～ STAY HOMEな仕事と旅で人に感動を～

今回の取材先である琴平バス株式会社は、「こんぴらさん」で有名な香川県琴平町に所在し、創業60年を超える老舗バス会社です。

地元では「コトバス」の名で知られ、これまでインバウンド客をターゲットに県内のうどんスポットを巡る「うどんタクシー」、バスの中に囲炉裏を作った古民家バスなど、遊び心？満載のアイデアで利用者を楽しませてくれています。

そんな業界異端ともいえる琴平バス株式会社にその人はいます。いや、正確にいうと今は香川ではなく関西にいます。

今回取材した山本紗希さんは、結婚を機に5年前から関西に在住。これまで担当した数々のツアー企画やインバウンド事業などもリモートワークにより生まれました。取材当日も関西にある自宅兼仕事場からビデオ会議アプリ「Zoom（ズーム）」を使ってのリモート取材に応じてくれました。



特許出願中 オンラインバスツアー

琴平バスでは5月から全国初のサービス、オンラインバスツアーを開始しました。新型コロナウイルスの影響でバスツアー再開の目途がたたない中、自宅で旅行気分が味わえる新しいツアーとして人気を集めています。

正直、会社がヤバいと思いました…

新型コロナウイルスの影響で、3月から琴平バス全てのバスツアーが中止。もちろん売り上げはゼロになりました。まずは「一日も早くお客様に会いたい」と強く思いました。苦境に立たされた観光地の土産店からの声も届き、地域の特産品ともコラボして何かできないかとひねり出したのがこの「オンラインバスツアー」企画です。

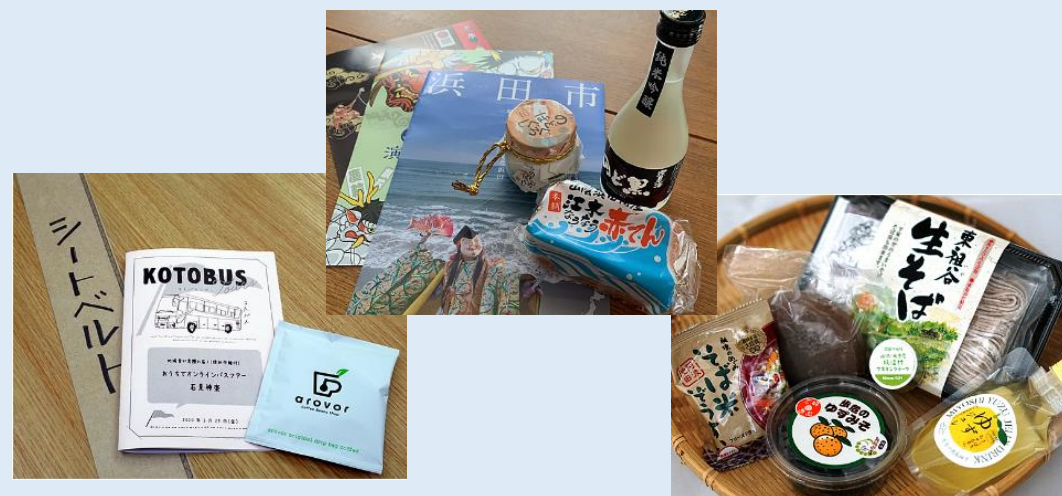
旅動画をYouTube動画で配信する企画は他のツアー会社でもやっていますよね。コトバスのオンラインバスツアーは何が違うのでしょうか。



ズバリ、バーチャルとリアル融合です。

参加者には、事前に旅行先の特産品である地酒や食べ物が届きます。ツアーがスタートしたら、道中や観光地の動画を楽しみながら特産品を食べ、プランナーや他の参加者との会話をします。お土産コーナーを見て、気に入ったものは購入・お届けも可能なんです。

当社の顧客は平均年齢63歳、女性のお客様が多いので、インターネットやアプリの操作などに不慣れな方のためにも、丁寧なサポートを心掛けています。



そもそもバスツアーは団体向けプランが主流。しかもメイン顧客はシニア層。オンライン企画がハマるか…不安はなかったのでしょうか。社内の反応も気になります。



「Zoom（ズーム）」を使ってオンライン上でバスツアーができないか考え、すぐに社長に相談しました。社長からは「コロナ禍で売上はゼロなのだから失うものは何もない！何でもやってみたらいい！！」と言われました。自分としてもこの状況で何も策を講じないままではイヤだったので、社長のOKが出たら急いで準備に取り掛かりました。



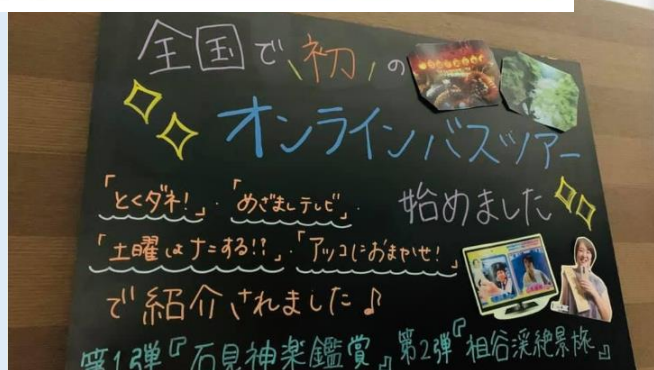
ピンチはチャンス

日本中が新型コロナ一色、大混乱の最中に発車したツアーでしたが、蓋を開ければたくさんのメディアにも取り上げられ、第1弾として売り出したツアーは全て完売するほどの人気商品に。まさに逆境を逆手に取った見事なビジネスセンス。圧巻ですね。

▶ 当初は現実のツアーが再開するまでの“期間限定”を想定していましたが、今はオンラインバスツアーをコロナ終息後も続くサービスへと進化させたいと思っています。

これまでのバスツアーでは、現実の長距離移動が難しい高齢者や身体の不自由な方などは、参加したくても諦めざるを得ませんでした。また、そもそも当地に來られない遠方の方は全くご縁がなかったわけです。オンラインバスツアーはそのような垣根をなくし、だれでも自宅にいながら旅行気分を楽しんでいただける商品として、これまでにない需要が見込めると思います。

先日のツアーにはモルディブ在住の方も参加してくださいました。オンラインだと現実のバスツアーではなかなか同乗する機会のない人とも知り合いになれますし、このツアーを母の日のプレゼントに選んでくださった方もいました。いろいろなエピソードを聞くとまたアイデアが膨らみますね。



私、失敗しないので

テレワークやオンライン会議など、新型コロナウイルス感染症対策では働き方の新しいスタイルとして紹介されています。

山本さんは5年前からリモートワーカーですが、山本さんが感じたメリットやデメリットを教えてください。

▶ 私には合っていると思います。どうしても気分が乗らない日はやらなければいいし(笑)。ただ結果が全て。他の社員と「時間」と「空間」を共有しながら自分の努力の過程を見せることはできないので、評価されるためには常に成果を求められますね。失敗を恐れずにチャレンジすることは大事ですよ。



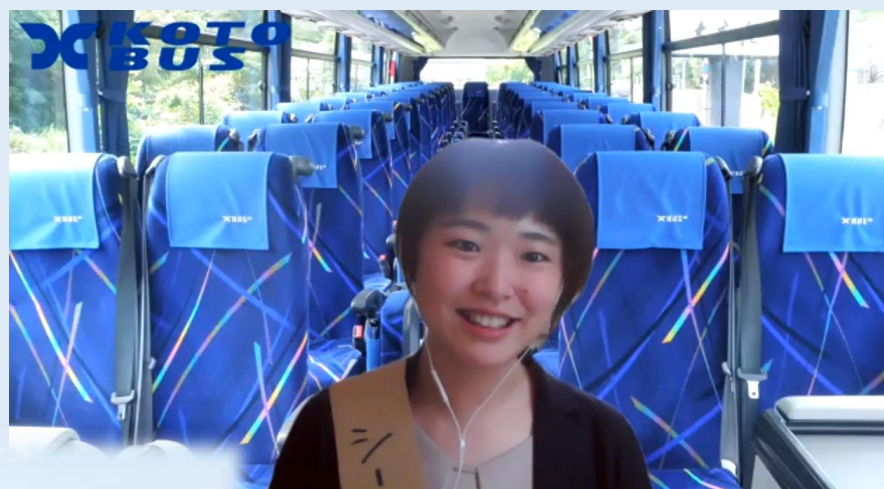
地域貢献は観光ビジネスの醍醐味！

瀬戸内国際芸術祭やオリンピックに向けたインバウンドの誘致など、これまで生み出した企画は数知れず。山本さんが考える四国の魅力や観光についてお聞きしました。

▶ 高松は実際に住んでいたこともあり、大好きな街ですね。自然が豊かで、繁華街と島(リゾート)が近いことも魅力です。会社の人員交流で直島文化村に勤務したこともあり、海や島は特に気に入っています。

オンラインバスツアーもただ動画を流すだけでなく、地域の特産品とセットで販売することで地域に貢献できるビジネスとして成立させることにこだわりました。コロナ終息後は、インバウンドにも力を入れたいですね。当社には語学が堪能な社員もいるので、彼らの活躍の場も一緒に考えていきたいです。

「琴平バス」はもっと地域に貢献できる企業へと成長していきます！



取材後記

○ 社会の変化をタイムリーに捉え自分にできることを柔軟に考え、企画し実行している…そんな山本さんの能力欲しいなと、同世代として憧れました。オンラインバスツアー、バズる気がしてなりません！ Zoomは飲みでしか使ったことがなかったのですが、会議としても有効に利用できることが分かり、今後のツールの1つとしたいです。
(局・統括証券検査官 西尾俊史)

○ まさに今の時代のロールモデル。抜群のビジネスセンスと圧倒的な努力量で、若くして会社の重要ポストを任されていることにも頷けます。柔らかな雰囲気と時折話す関西弁に取材中何度も癒されました。
(局・総務課 林恭子)

掲載している情報は、令和2年6月時点のものです。
掲載している写真は、同社よりご提供いただきました。